

こすずめのぼうけん



こすずめのぼうけん

ルース・エインズワース || 作
石井 桃子 || 訳
堀内 誠一 || 画
福音館書店

飛び方の練習をしていて、疲れてきたこすずめ。けれど「ちゅん、ちゅん、ちゅん」としか言えないので、なかなか休ませてもらえません。同じ鳴き声を探して、あちこち飛びまわり…。

こんとあき



こんとあき

林 明子 || さく
福音館書店

あきは、生まれた時からいっしょのぬいぐるみのこんと、遠くのおばあちゃんちまで旅をします。はらはらドキドキしながらもあきとこんのきずなに心温まる一冊です。



したきりすずめ

石井 桃子 || 再話
赤羽 末吉 || 画
福音館書店

ばあさの作ったのりを食べてしまったすずめは、怒ったばあさに舌を切られてしまいました。山へ飛んでいったすずめに、じいさは謝ろうと山へすずめを探しにいくことに…。有名な日本昔話を情感豊かな言葉で表現した絵本です。



11ぴきのねこ ぶくろのなか

馬場 のぼる || 著
こぐま社

11ぴきのねこたちが元気に遠足にでかけると、行く先々に注意書きの立て札が立っています。それを無視して楽しそうなかねこたちですが、とうとう怪物ウヒアハに捕まってしまう。困ったねこたちは…。



14ひきのひっこし

いわむら かずお || さく
童心社

ねずみの家族が新しい家を探し、旅をして、ようやく見つけた木の根っこで家族みんな協力してお家づくり。個性豊かなねずみ一家と、細かく丁寧に描かれた自然にねずみ一家の一員になれたような気持ちで読めます。



すてきな三にんぐみ

トミー=アングラー || さく
いまえ よしとも || やく
偕成社

黒いぼうしに黒マントの三人のどろぼうたち。いつものようにばしゃをおどろかせて宝ものをうばおうとしましたが…。ほうせきより、きんかより、ステキな宝ものをみつけた三にんぐみの絵本です。



だいこんどのむかし

渡辺 節子 || ぶん
二俣 英五郎 || え
ほるぷ出版

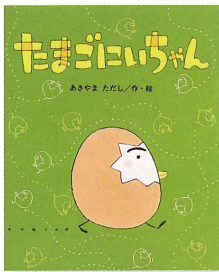
村に生えた一本の大きなだいこん。村人が抜こうとしても抜かず、「おろし」という言葉を聞いたとたん、だいこんがめくめくめくと泣き始めた。だいこんは抜かれずに村に生え、村を守りますが…。



だじゃれすいぞくかん

中川 ひろたか || 文
高島 純 || 絵
絵本館

「もういいかい」「マダイだよ」。最初から最後までぜんぶ水族館にいる生き物のだじゃれ。声に出して読んでみて、お魚の名前も覚えちゃおう。水族館に行ってお魚を見つけたらつい笑っちゃうかも。



たまごにいちゃん

あきやま ただし || 作・絵

鈴木出版

いつでもお母さんにあたためてもらえるから、ずっとたまごのままにいたいたまごにいちゃん。でも、ついにその日はやってきます。お子様の成長と照らし合わせながらあたたかい気持ちになれる絵本です。

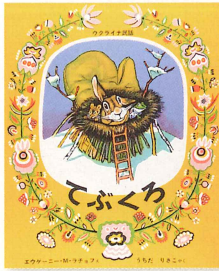


だるまちゃんとてんぐちゃん

加古 里子 || さく・え

福音館書店

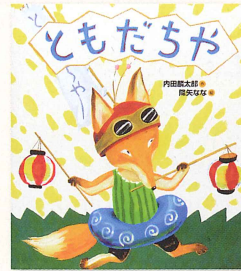
「だるまちゃん」シリーズの1冊。てんぐちゃんのもっているものがはしくなり、家でいるいるみつけて、すっかりてんぐちゃんのようになっただるまちゃん。長いはなにスズメがとまって…。



てぶくろ

エウゲーニー・M・ラチョフ || え
うちだ りさこ || やく
福音館書店

おじいさんがもりでおとしたてぶくろ。ねずみがやってきて、てぶくろの中におすことに。すると、かえるやうさぎたちも次々やってきては、てぶくろの中へ。もうてぶくろは、はちきれんばかりになり…。



ともだちや

内田 麟太郎 || 作
降矢 なな || 絵
偕成社

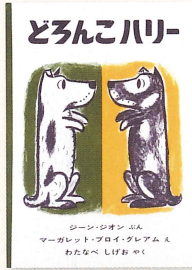
「ともだちや」を商売にするちゃっかりもののキツネは、実はさびしがり屋。商売のつもりがオオカミと遊ぶうちに本物の友情が芽生えて、驚きつつもうれしいまさかの展開に！



とら猫とおしょうさん

おざわ としお || 再話
かないだ えつこ || 絵
くもん出版

びんぼう寺のおしょうさんの飼っている猫が、夜中におしょうさんの衣を着て外にでかけていきます。おしょうさんがあとを追うと…。ひたちなか市に伝わる「華蔵院の猫」に似ている昔話です。



どろんこハリー

ジーン・ジオン || ぶん
マーガレット・プロイ・グレアム || え
わたなべ しげお || やく
福音館書店

ハリーはおふるがだいきらい。あるひ、まちのなかをあちこちかけまわり、いっぱいあそんできたけれど、どろんこまみれになってしまい…。



ねえ、どれがいい?

ジョン・バーニンガム || さく
まつかわ まゆみ || やく
評論社

「どれがいい?」と問われても、現実なら「どれもいやだ」と答えたくりますが、本の中なら楽しめる場面がいっぱい。こどものことばや経験がふえていくにつれて反応もさまざまです。



ねえだっこして

竹下 文子 || 文
田中 清代 || 絵
金の星社

お母さんのおひざの上は、わたしの大好きな場所。でも、このごろはずっと赤ちゃんがいてちょっとつまらない。ねこの視点で描かれる、母と子とねこの、ちょっと切なくてあたたかなふれあいのお話です。